

埋文也まがた



2001年10月31日
第21号

(城輪柵跡出土)



酒田市 泉森窯跡出土あふみがわら 鏡瓦

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

2001年 発掘調査トピックス

今年度は道路改良やほ場整備などにかかわって、県内19遺跡の発掘調査を行っています。今回はその中から5遺跡を取り上げ、発見された生活の跡や残された遺物についてトピックスとして紹介します。



釜淵ムラの縄文人は お祭り大好き!?

今年度の調査において、縄文時代中期末から後期前葉とみられる集落跡では、複式炉を有する竪穴住居跡と、さまざまな形をした多数の配石や、周りに焼石を伴う埋設土器など、祭祀に関わると考えられる配石遺構群が確認されました。

また、晩期の捨て場では土器や石器をはじめとする大量の遺物が、およそ2mの厚さで堆積しており、その下からは水場遺構が見つかりました。

(黒坂雅人・豊野潤子)



土偶の出土状況

かまぶち 真室川町釜淵C遺跡



縄文時代の水場遺構



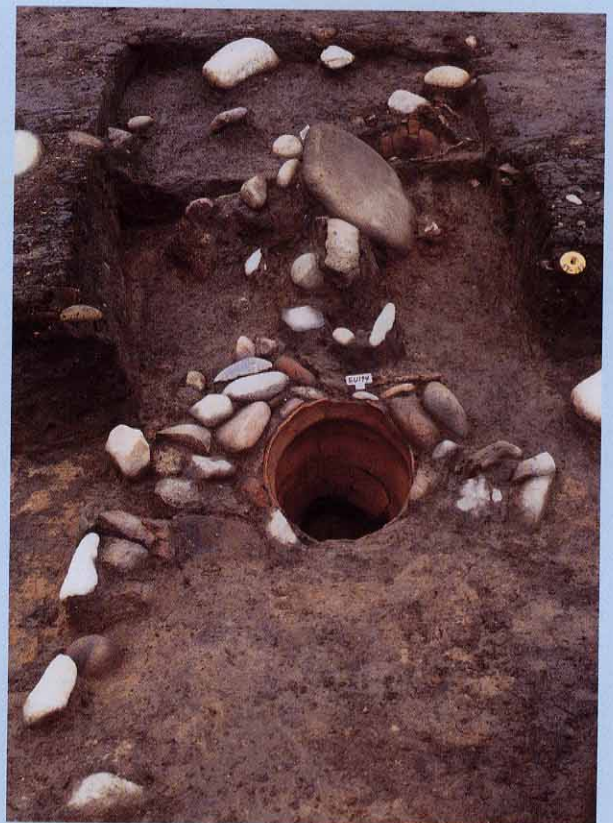
土器捨て場の土層断面 (多数の土器がささっている)



竪穴住居跡群



配石遺構群の一部



配石を伴った埋設土器



環状配石遺構の想定復元



何に使われたの だろうか？

さかのうえ
山形市坂ノ上遺跡



ST21大型竪穴全景

縄文時代前期中葉の大型竪穴が発見されました。全長17m、最大幅が6mで床面中央に一直線に7カ所の炉跡があります。

柱穴は直立し、最大67cmの深さを持つ10対、20本の主柱で構成されています。

大型竪穴は集落内の共同作業や集会所等の機能があったといわれますが、坂ノ上遺跡ではこの竪穴を除くと1～2棟しかなく、拠点的な集落に認められる植物質食料の加工に使われた礫石器も貧弱です。どのような目的で作られたのでしょうか？

(渋谷孝雄)



3号炉跡：厚い焼け土が認められます。



多量の石屑：竪穴から多量の石屑が出土し、土ごと採取しました。



石屑の山：土を洗って篩ふるいにかけ、9,779点の石屑いしくずが回収されました。

古墳時代の ゆるゆるなお墓！

きたこ や やしき
米沢市北小屋屋敷遺跡



方形墳墓群の検出状況



方形の周溝が重なり合う1号周溝墓と2号周溝墓

米沢市北部の北小屋屋敷遺跡では、平地に6基の方形の中型周溝墓群と、小型の甕棺墓や土坑墓群が検出されました。

周溝墓群はすでに主体部が削平されていましたが、直径約15~20mの大きさで、幅1m前後の溝跡が方形に回っています。

方形の周溝墓群の外側には直径1m以下の甕棺墓や土坑墓がまとまって確認されました。甕棺の中からは朱、土坑墓からは人骨が見つかりました。

これらのお墓は、出土遺物等から古墳時代中期（約1,600年前）ころと考えられ、大きさやお墓の形態から葬られた人の階級や時期の違いが考えられます。

（植松暁彦）



甕棺墓（口にはフタを被せている）



土坑墓（白いものが骨片）

古墳時代のムラの中心部と 近世の墓地！

しづえ 山形市渋江遺跡

山形市北部を流れる白川（馬見ヶ崎川）右岸の自然堤防上から、古墳時代の集落跡と近世墓が検出されました。古墳時代の遺構では、5～7mの方形または長方形の竪穴住居跡が70棟以上検出されました。総住居数の3割程度は、何らかの理由で火災にあっていることがわかりました。また、土葬と火葬合わせて100基以上の近世以降のお墓も見つかっています。中世では、掘立柱建物跡や区画溝が検出され、溝跡からは中国産の青磁などが出土しました。

（押切智紀）



1. 近世の墓と溝跡に切られた竪穴住居跡
（火災にあって床に炭化材が散乱している）



竪穴住居跡群を切る中世の溝跡



2. 人骨がほぼ完全な形で出土した近世墓



上の溝跡から出土した中国産の青磁片

見つかった！ 国府の瓦を焼いた登窯

のほりがま

いすみもり
酒田市泉森窯跡



崩れた壁や天井



山の斜面を利用



遺跡遠景

平安時代の国府と考えられている
城輪柵跡きのわのきくあとから直線距離で約3.5kmの
ところにあります。周辺には願瀬山
窯跡や泉谷地窯跡といった窯跡群が
点在します。

泉森窯跡では土器の他にたくさん
の瓦も出土しました。その中でも、
軒先を飾った鏡瓦あなごみの模様が城輪柵跡
から出土したものと同じ型で作られ
ていることがわかりました。

(伊藤邦弘)



掘り上がった登窯



土器や瓦がたくさん出土した様子

国指定史跡

いちのさかいせき

米沢市 一ノ坂遺跡



〈冬支度〉 …母はいそがしい…

米沢市西部、^{なだら}斜平丘陵の麓に一ノ坂遺跡があります。現場は、緩やかな坂を少し登ったところにあり閑静な住宅地の一角に柵を施して保存してあります。平成元年、宅地造成の前に緊急の発掘調査をしたところ、大型の竪穴住居跡が発見されました。この住居は、今から約6,000年前の縄文前期初頭の住居跡で、全長43.5m・長楕円形の日本において最も長い住居跡です。住居内には、火を燃やす施設である地床炉を6基有し、柱穴が壁にそってほぼ等間隔に並んでいます。遺物は、住居内を中心に多量に出土しました。特に石器は、^{せきぞく}石鏃・^{りょうせんひしめ}両尖ヒ首・^{せつび}石匙などを中心に、その製作途中のもの、製作断念のもの、製作失敗のもの、完成品など多量に検出されました。石器製作のうえで削りだされた剥片や未完成製品などは、床に敷き詰められその上に炭化したクルミを砕いたものを敷き、さらに微砂質の砂質層で覆い、意図的に埋められていました。

また、大型竪穴住居跡の発見を契機に、発掘調査は平成6年まで行われ、小規模な竪穴住居跡群や、白玉と石器を副葬とした土壇墓など一般居住地域も確認されました。その中で「連房式竪穴住居跡」と名づけられた特殊な建物は、全長約50mになる9棟の竪穴住居跡が軒を接して連なって発見されたものでした。これまでの縄文時代の遺跡としては、前例のないものです。出土した土器から大型竪穴住居跡とほぼ同時期のものと考えられ、石器工房で働く人々の住まいがこの連房式竪穴住居跡ではないかと調査担当者は考えています。一ノ坂で製作された石器は東北南部から関東・中部地方にまで広がっていることがわかっています。

この成果により、大型竪穴住居跡は、現状で保存されることとなり、平成8年度に国の史跡に指定されました。現場に立って、耳を澄ますと石を砕く音が聞こえてくるようでした。

(福澤美幸)

Illustration ©Kurosaka Hilomi

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301 (代表)



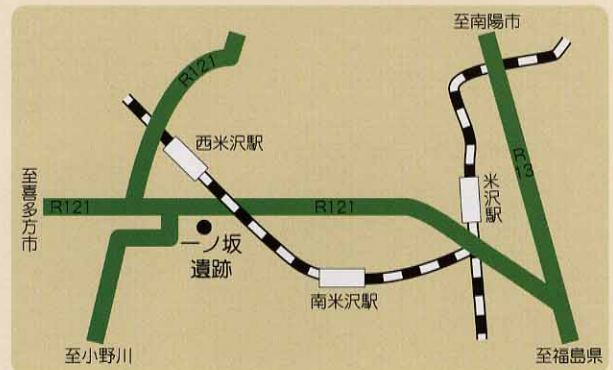
現在の保存状況



石器



大型竪穴住居跡



資料提供：米沢市教育委員会

■ 編集後記 ■

夏の猛暑に台風による大雨などが続きましたが、最近ではめっきり肌寒くなりストーブが恋しいこの頃です。発掘調査も最終盤をむかえ、今回ご紹介したほかにも貴重な発見が多くありました。12月には調査報告会をビッグウイングにて開催しますので、ぜひご来場ください。(新)